

ふる かわ 古 川

昔、船堀川、横川などと呼んでいた河川がありました。この川は、もとは利根川とよばれた江戸川の旧河道でした。

天正18年(1590)8月、江戸に入府した徳川家康は、小名木川の開削とあわせて旧河川を連結するなどの改修をして江戸川と結ぶ水路(船堀川)をひらきました。行徳の塩を江戸に運搬するため、この運河は行徳川とも呼ばれました。その後、江戸の繁栄とともにこの水路を利用する舟運が盛んになりましたが、屈曲が多くて、その頃よく使われていた高瀬舟の航行には支障をきたしていました。寛永6年(1629)この支障をなくすために、今の三角(新川橋)のところから東へ、江戸川まで一直線に新しく水路を開削しました。

行徳や上総方面からの舟荷はもっぱらこの新しい川から、小名木川を経て江戸へ入ることになり、その頃から「新川」とよび、元の川は「古川」とよばれるようになりました。水運が新川に移り、舟足の絶えた古川は生活の川となり、悪水落としの水路に利用されましたが、川沿いには見事な松が枝ぶりを競い、妙勝寺、蓮華寺、真福寺と寺も並んで、そのたたずまいは『江戸名所図会』にも紹介されています。

長い間、田園地帯の水源・水路として活用されてきた古川の流れにも、昭和30年代(1955)後半になると、都市化の波が押し寄せました。周辺に住宅や工場が増え、家庭の雑排水などが流れ込み、やがて悪臭を放つドブ川同然となってしまいました。昭和39年当時は、古川を埋め立てて川幅をせまくし、その土地を売却することを計画しましたが、地元の人たちからは是非、この古川を残してほしい、



二之江・妙勝寺(『江戸名所図会』より)

古川に江戸川の水を入れてほしい、という強い要望が寄せられました。

区では昭和47年(1972)に「江戸川区内河川整備計画(親水計画)」を策定。「治水」から「利水」、そして「親水」という新しい理念を打ち出しました。全国初の、水と緑に親しめる「古川親水公園」は、昭和49年(1974)4月にこうして誕生しました。水は江戸川より取り入れて浄化滅菌処理のうえ、流しています。



改修前の古川

古川親水公園の工事概要

- ・昭和47年 工事開始
- ・昭和48年 上流部520m完成
- ・昭和49年 下流部680m完成 (全線完成)
(総延長1,200m、公園面積9,434㎡)
- ・工事費 約4億5千万円

古川親水公園は昭和49年5月31日、建設技術協会から「全建賞」を受賞しました。全建賞は年間の特に優れた工事に与えられる栄誉ある賞です。同時に受賞したのは、関門橋や富士山測候所建設工事などの大プロジェクトでした。また、地方自治体の受賞は、表彰制度が始まって以来、初めてのことでした。



古川の面影(昭和29年江戸川六丁目付近)



古川親水公園(2010年10月撮影)

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)